

県会は臨時議会を開き、1年交代が慣例となっている正副議長の改選を行い、新議長に4期の大森哲男氏、副議長に2期の小堀友廣氏を選出。正副議長とも立候補は最大会派自民党福井県議会が推す1人だけで、共産を除き全会派一致の承認を得た。今期の最終年度を迎え、山積する課題解決に取り組み、県民の付託に応える県会のトップとして重要な役割を担う大森議長、小堀副議長の手腕に期待が集まる。

県会議長に大森哲男氏



大森哲男議長

Tetsuo Omori

Profile おおもり・てつお
甲南大学経済学部卒。福井市議を1期務めた後、平成19年に福井市選挙区から県議に初当選。現在4期目。平成29年から副議長を務めた。福井市大手3丁目。67歳。

敦賀以西新幹線整備 まさに正念場

第104代議長に大森哲男氏が選出された。大森氏は33票のうち共産党の佐藤正雄氏1票を除く32票を得た。

議長に就任した大森氏は、北陸新幹線の県内開業が2年後に迫り、県民の期待も高まっている一方、敦賀以西の整備は今まさに正念場を迎えている。令和5年度当初の着工に向けて、これまで以上に「オールふくい」で取り組み、出来るだけ早く大阪までつなげることが重要であり、特に強く取り組んでいくと、力を込める。

先の北陸新幹線建設促進沿線府県議会協議会で会長に就任した大森氏。敦賀以西の整備は夏の概算要求に向けてヤマ場を迎える。その自覚と覚悟を胸に、2023年度当初の着工に向けて気運の醸成へ沿線議会が一丸となった取り組みを期する。

新幹線とともに中部縦貫自動車道は令和8年春には県内全線開通の見込みであり、舞鶴若狭自動車道の4車線化など高速交通網の整備が進むことにより、3大都市圏とのアクセスが飛躍的に向上し、人・モノ・情報の交流化が一層迅速になる時代を迎えようとしている。地震災害やチャイナリスクなどがあり、リスクヘッジに日本海側が、福井県が発展する可能性は高まる。この100年に一度の大きなチャンスだからこそ、2次交通の充実など新幹線を生かすまちづくりを県民一丸となつて加速化させ、交流人口の

拡大を図り、本県の更なる成長・発展につなげていくことが重要であると意欲を燃やす。大森氏は福井市議を1期務めた後、平成19年に県議選に初当選し、現在4期目。

駅前再開発が進められる県都福井市の中心市街地活性化に注力する大森氏は、次期福井市長とも期待される中心市街地の次代を担うリーダーとして貴重な政治家である。

新幹線に乗り、多くのお客様に来ていただき、まちづくりの大きな切っ掛けにしたいと奮闘するだけに、県内唯一の百貨店、西武の今後に強い関心を寄せる。

地元密着型で、地方は地方らしく、特色ある地域の文化を育む気概で議会活動に臨む大森氏は、県都福井市発展に欠かせぬ政治家として、県会の中核としてより一層の活躍が期待されるだけに、今後大森氏の活発な政治活動に注視したい。

副議長に小堀友廣氏



小堀友廣副議長

副議長選も無効の1票を除き32票を獲得し、自民党福井県議会の小堀友廣氏が第109代副議長に選出された。

副議長に就任した小堀氏は、議長をしっかりと補佐し議会の円滑な運営と活性化に努めたこと、冷静に応えた。

小堀氏は小浜市・三方郡・三方上中郡選出、現在2期目。若狭町議を3期務め、ベテラン吉田伊三郎県議の後継として県議選に出馬。柔和温厚な人柄の中に繊細緻密な判断力、抜群の行動力を兼ね備え、若狭地域の発展と活性化に意欲

的に取り組み、住民の信頼を一身に集めるだけに、今後も一層の活躍が期待されている。

今回、県会最大党派県会自民党の笹岡氏を除く25人が新党派「自民党福井県議会」を結成。会長に仲倉典克県議、副会長に松田泰典県議、幹事に鈴木宏紀県議を選任。

あわら市選挙区県議補選 笹原氏無投票当選

笹岡氏の辞職に伴いあわら市選挙区の県議補選が告示され、無所属新人の印刷会社経営、笹原修之氏が立候補。県内の県議選で初の無投票当選が決まった。



笹原修之

46歳
阪南大卒
印刷会社社長
あわら市春宮2